

## 外部評価委員の意見と本校の回答

### 目標1 多様な担い手や労働力の確保

項目	事項	委員からの意見	本校の回答
1 新規就農に関する相談及び支援・指導体制の整備	1 農起業支援ステーションによる就農相談の実施	<p>県内の新規就農への貢献は高く評価できる。窓口を一本化し各地域・団体と連携がとれているとみることができる。そのなかで研修という部分でも必須の機関と評価できる。</p> <p>農大ブランドの確立を通じて、教育と社会的認知度向上、学生確保につなげることが重要であるため、さらなる強化を期待したい。</p> <p>現状がよい形に見える。定着、軌道に乗せる、発展において、「軌道に乗せる」がむしろ課題。</p> <p>各産地で新規就農者の受入体制を作っているが、県、市町村の協力が必要であり、引き続き、連携をお願いしたい。今後は、就農の呼び込みのスキームとして、相談と研修の間にある体験研修についても検討いただきたい。</p>	<p>引き続き、各地域・団体との連携に努めるとともに、相談者の理解促進、新規就農につながる取組や改善を進めてまいりたい。</p> <p>就農後も新規就農者の技術や経営の向上につながるよう、各地域の関係機関等と連携し必要な支援に努めてまいりたい。</p>
2 意欲の高い学生等の確保に向けた魅力ある学校づくり	1 県民や地域に開かれた学校づくり	<p>農大祭では、長靴とばしなど、来場者参加型の取組を実施できるとよい。</p>	<p>従来より来場者が参加できる農大キャンパスツアーを実施しているが、他にも交流を推進できる取組があるか検討していきたい。</p>
		<p>県民向けの農業体験は、天候の影響で実施できなかったが、農大としてやるべき計画、準備は行っているので、評価を再検討してはどうか。</p>	<p>御意見を受け、農業体験に係る計画、準備の取組状況をふまえて、B評価としたい。</p>
	2 情報発信の強化	<p>話題に新しい視点を盛り込み、発信力のあるメディアに積極的な情報提供を行っていただきたい。</p> <p>事前に情報発信でき、学生が主体的に関わると良い。</p> <p>発信した情報が、どのくらい見られているのか評価できるようにしてはどうか。</p> <p>結果としてどれだけ見られているかは確認したほうがよいが、まずは受けてもらえるように発信することが重要。</p>	<p>農大に関心を持ってもらえるよう、イベントや時季の話題について、メディアの適性等を考慮した情報発信を積極的に行ってまいりたい。</p> <p>引き続き、学生の視点で主体的な情報発信を行うとともに、Webページ等の閲覧状況等、把握可能なデータにより効果等を検証し、魅力ある発信に努めてまいりたい。</p>

項目	事項	委員からの意見	本校の回答
	3 農大ブランドづくりによる農大バリュー(価値)の構築	<p>情熱のある実践者との出会いが、この年齢の学生には一番重要と考える。</p> <p>時代の要請に応えられる資格及び知識のリサーチ+カリキュラムが必要。</p> <p>六次産業化の流れをみると、食品加工、観光業など幅広く捉えていくことが求められているといえる。この点が学生確保にもつながってくると思われる。</p>	<p>1年生のカリキュラムに農家派遣実習があり、引き続き実践者(先進農家等)との出会いの機会を設け、実践者からの学びを深めてまいりたい。</p> <p>実習等でスマート農業を学ぶ時間を増やす等、時代の要請に応えられる資格(ドローン免許等)及び知識を習得できるようなカリキュラムを検討してまいりたい。</p> <p>引き続き、校外学習や講義等により、食品加工、観光業などを幅広く捉えることができるようなカリキュラムを検討し、学生の確保へつながるように努めたい。</p>
	5 時代に対応した入学制度の検討	<p>学生確保の問題は避けて通れない。全国的にみて健闘していることは認められるが、少子化の中で受験生の流れも大きく変わっている。抜本的な対策が求められる。定員、分野、専門職大学化等、将来計画を検討いただきたい。</p> <p>女子学生はもっと増える可能性がある。何か対策を進めているか。</p> <p>寮生活の意義と機能をもっと打ち出すべき。これは強みになり得る。</p>	<p>本校の将来計画については、本校のめざす教育・研修の姿とその達成に向けて、5か年ごとに教育研修基本計画を策定している。</p> <p>女子学生については、寮舎室数の関係で課題があるが、男女含め全体の学生数の動向を見極めながら検討を進めてまいりたい。</p> <p>オープンキャンパスやチャシなどで学生寮のPRを行うとともに、寮の存在がより有効な選択肢となりうる県外学生に対し、全国の農業高校にチャシを郵送するなど引き続きPRを続けてまいりたい。</p>
3 多様な労働力の確保に向けた支援	1 農福連携の推進	<p>農福連携の実績はあるものの、先導的役割を果たしている取組をみせてほしい。</p> <p>農福連携のモデルとなるような先駆的实践が大学校に求められるのではないかと。</p> <p>日本の福祉施設の運営レベルはかなり高く、農業との相性は良いはず。事例の紹介が有力ではないかと。</p>	<p>福祉事業者向けに実施している研修には、農福連携に積極的に取り組む事業者にも参加いただいていることから、取組内容の向上や連携の拡大につながるよう、支援に努めてまいりたい。</p> <p>研修では、農福連携に取り組む施設等の視察を行っている。今後も新たな連携や取組の活性化につながるよう事例紹介等を行ってまいりたい。</p>

目標2 地域農業を支える人材育成及び就農支援

項目	事項	委員からの意見	本校の回答
1 学校教育の充実	1 多様な学生に対応したカリキュラムの強化	<p>限られた予算の中でICTなど時代に応じた教育機会を提供していると評価できる。</p> <p>主権者としての自覚の醸成のため、国政、地方自治、農村・農協運営等、内容を検討してはどうか。</p>	<p>次代を担う農業者育成の観点から、時代に即したカリキュラムとなるよう、引き続き、ニーズを把握し、企業や関連機関等と連携を図りながら、カリキュラムの見直し・強化に取り組んでまいりたい。</p> <p>年度当初に各学生との面談を実施し、得られたデータを蓄積して、今後の学生指導に役立ててまいりたい。</p> <p>国の施策に対応したカリキュラムの検討を行うことで、国政、地方自治、農村・農協運営のあり方について、日本の農業の将来を担う主権者としての自覚の醸成を図りたい。</p>
	3 学生のコミュニケーション能力・社会性の向上	<p>若い農業者は、農業施策、農協運営を遠いことと感じている人が多い。能動的に変えていくための、コミュニケーション能力、学習意欲が欲しい。</p> <p>コミュニケーション能力に力点を置くことは重要であり、評価できる。</p>	<p>学校運営等において引き続き、学生主体での活動を促し、学生のコミュニケーション能力、意欲を引き出すよう努めてまいりたい。</p> <p>引き続き、学生が参加可能なボランティアや地域イベントの情報収集及び参加を促進し、ボランティアや地域イベントへの参加を通じて学生のコミュニケーション能力、学習意欲を高めていきたい。</p> <p>農業は、コミュニケーション能力を必要とする職業なので、日頃の学生指導を始めとして、引き続きコミュニケーション能力の向上に力点を置いていきたい。</p>
		<p>懸賞論文上位入賞を目標とするより参加者数の方が良い。表彰を目的にせず、参加することに意義があるのではないか。</p>	<p>目標の指標を懸賞論文上位入賞の学生数ではなく参加する学生数としたい。</p>
	4 高度な教育環境の整備	<p>今の子どもは自ら考えて作り出すのが得意。異業種との交流で化学反応して、農業に持ち帰ることができるので農業に携わる人が増えるのではないか。</p> <p>IT化を含め、機械の基礎、メンテナンスの素養は、学生のうちにしっかり学んでもらいたい。</p>	<p>メーカーや関係機関等の協力を得て、スマート農業を学ぶ機会を増やし、特に学生のスマート農業機器の操作技術を高めてまいりたい。</p>

項目	事項	委員からの意見	本校の回答
2 学生の就職・就農の支援	1 進路別指導の強化	農業および農業関連産業への人材供給という点では、高い実績を示しており重要な人材供給源として機能している。非農家出身者が農業および農業関連産業に就職する意義は大きい。  卒業生の受入側から雇用継続の実績を見ると、良い人材育成ができています。在学中に資格をなるべく取っていただきたい。即戦力となり、給料にも反映できる。	農業および農業関連企業等からの求人が多く寄せられており、非農家出身の学生が希望する農業法人への就農や農業関連企業への就職を引き続き支援してまいりたい。  在学中に取得できる免許・資格について進路指導及び各専攻職員から学生に向け積極的な取得を引き続き呼びかけてまいりたい。
3 研修生（新規就農者希望者）の育成及び就農支援の強化	1 研修内容や運営方法の充実強化	時代に即した充実した研修を提供していると高く評価できる。リモートと対面での両面のバランスも追及すべき課題といえる。  リモート研修については、提供で終わってしまわないように、効果等の検証は必要になってくると思われる。	対面とリモートのバランスについては、引き続き対面を基本とし、リモートは補助としつつ、アンケートなどにより改善すべき点を検討してまいりたい。  効果の検証については、アンケートにより理解度等、効果の検証をしてまいりたい。
	2 現場と連携した就農支援の強化	県とJAの関係が良好であるので、連携を強化して就農支援に結びつけていって欲しい。  新規就農の成功、失敗、両事例の紹介及び体験者との対話がよいのではないかな。	今後さらにJA組織との連携を深め、研修生の就農を支援してまいりたい。  各研修において、修了生の体験談を聞く講義や現地を視察する時間を設けている。失敗事例については、修了後追跡調査を行う中で把握し、個別面談時の指導材料としたい。

### 目標3 地域農業を担う農業経営者の育成支援

項目	事項	委員からの意見	本校の回答
1 経営の発展段階に応じた体系的な研修の充実	1 農業経営の発展に必要な知識や技術に関する研修の充実・強化	担い手の成長や経営の発展段階に応じた研修が組み立てられていることは評価できる。そのなかでリモート研修については、提供で終わってしまわないように、効果等の検証は必要になってくると思われる。  リモート研修の有効活用のためにも、バーチャルな部分とリアルな部分の補完関係を追求していって欲しい。アンケート等で効果をみることは重要なので、結果に期待したい。  困りごとのテーマに応じたベテラン農家の紹介のシステム作りが有効かと考える。	効果の検証については、アンケートにより理解度等、効果を検証し、必要な改善を行ってまいりたい。  引き続き、研修の効果を高めるため、経営の発展段階に応じた教材や研修の構成等を見直すとともに、新規就農者が定着できるよう各地域の関係機関等と支援のあり方を検討してまいりたい。
	2 「あいち農業経営塾」（旧：「愛知農業次世代リーダー塾」）の充実・強化	受講者をよく集めていると思うが、目標設定が高いので検討してはどうか。	修了者すべてが経営計画を作成できることを目標とした。人数目標は参考値としつつも、次年度も20人以上の受講者確保に努めたい。